

# 中学校第2学年 社会科 学習構想案

期 日 令和6年10月30日（水）第5校時

場 所 2年2組教室

指導者 教諭 秦 梓

## 1 単元構想

<b>単元名</b>	「近畿地方」（東京書籍『社会 地理的分野』p209～220）		
<b>単元の目標</b>	(1) 近畿地方の地域的特色や地域の課題を理解することができる。人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた、特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解することができる。 (2) 近畿地方において、人口や都市・村落の成立条件を地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。 (3) 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。		
	<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
<b>単元の評価規準</b>	① 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた、特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 ③ 資料を基に読み取った情報を、文章とともにグラフ化、図表化している。	① 近畿地方において、人口や都市・村落の成立条件を地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	① 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
<b>単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）</b>			
「都市や農村の課題や変化」に着目して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする生徒			
<b>単元を通した課題</b>		<b>本単元で働かせる見方・考え方</b>	
近畿地方ではなぜ都市や農村の姿が変化してきたのだろうか。		位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し、その事象を成り立たせている背景や要因を地域という枠組みの中で環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みと関連付けて考えること。	
<b>指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時6／6）</b>			
<b>過程</b>	<b>時間</b>	<b>学習活動</b>	<b>具体的評価規準</b> ★は記録に残す評価の場面での「具体的評価規準」
課題把握	1	○資料から、近畿地方を特色付ける事象を見だし、単元を貫く問いを設定する。 ○近畿地方について、地形図や人口分布図などの資料から基礎的・基本的な地域的特色を身に付ける。	【態一①】（方法：発言，ワークシート） 資料から、近畿地方の特色に興味をもち、単元の課題を設定して、主体的に学習に取り組もうとしている。 ★【知一①②】（方法：観察，ワークシート） 近畿地方の位置と自然環境を概観して、構成する府県の位置と名称を理解するとともに、大まかな歴史的背景を理解しようとしている。

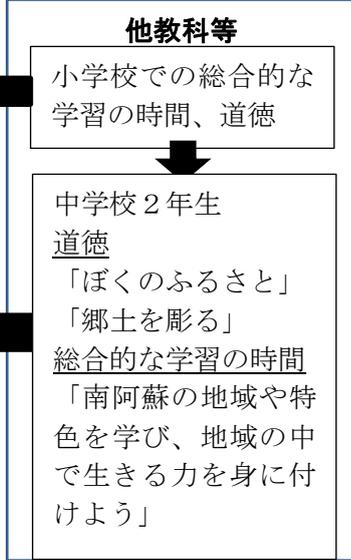
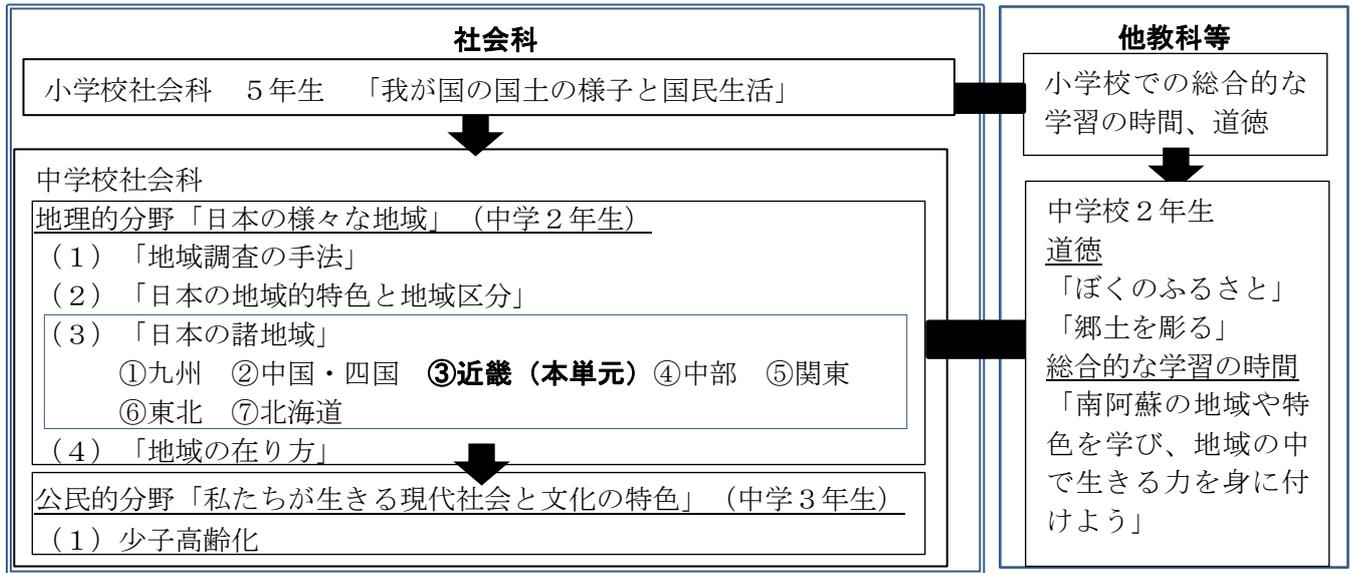
課題追究・課題解決	3	<p>○近畿地方の都市部の形成と産業における課題等について資料を基に、多面的・多角的に考察する。</p> <p>○近畿地方の農山村の課題と解決に向けた取組について、特色ある産業や景観、都市との交流などの視点から資料を基に交流する。</p> <p>○近畿地方の都市や農村の課題や変化をまとめ、「持続可能な近畿地方」を発信するために「候補地」「課題や変化」「背景」「事例」などの項目に合わせ既習事項をまとめ、整理する。</p>	<p>【思一①】（方法：観察，ワークシート）産業の振興と環境保全を両立するために取り組まれた工夫を、歴史的背景や人々の対応について多面的・多角的に考察している。</p> <p>【思一①】（方法：観察，ワークシート）過疎地域の対策について、都市部との交流と関連付けて考察し、表現している。</p> <p>★【知一①②③】（方法：観察，ワークシート）近畿地方の地域的特色と課題を理解し、産業を中核とした考察の仕方を基に、収集した資料から、調べたことを文章とともにグラフ化、図表化をすることができる。</p> <p>★【思一①】（方法：観察，ワークシート）近畿地方が依然として抱える課題について、地域的特色や既習の単元などでの学びを関連付けて、多面的・多角的に持続可能な地域づくりの構想をすることができる。</p> <p>★【態一①】（方法：観察，ワークシート）近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。</p>
新たな課題	2	<p>○身近な地域と関連付けて考察する。 南阿蘇村では、過疎に対する地域づくりの取組がどのように行われているのだろうか。また、持続可能な南阿蘇村にするために、近畿地方の取組で南阿蘇に生かせそうなものを発信しよう。（本時）</p>	<p>【思一①】（方法：観察，ワークシート）南阿蘇村の地域的特色と課題を理解し、過疎化の原因と改善に向けた取組について、収集した資料やゲストティーチャーの話から近畿地方と身近な地域を関連付けて考察している。</p> <p>★【態一①】（方法：発言，ワークシート）近畿地方での学習を基に、よりよい社会の実現を視野に南阿蘇村で見られる課題を主体的に解決しようとしている。</p>

## 2 単元における指導計画と評価計画及び系統

学習指導要領における該当箇所
<p>学習指導要領〔地理的分野〕C「日本の様々な地域」の（3）「日本の諸地域」を受けて設定されている。本単元の「近畿地方」では、「②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」を基に学習を進める。</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>（ア） 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。</p> <p>（イ） ①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、現力等を身に付けること。</p> <p>（ア） 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し表現すること。</p>
教材等の価値
<p>本単元で学習する近畿地方には、古代の都や大阪・神戸などの産業や交通の要地として発展してきた都市が多く存在している。また、人や物の移動で強いつながりを持つ、大阪大都市圏を中心に人口が集中し、過密化が進む地域がある。一方で、農山村では、過疎化が進んでいる。このような都市や農山村の課題に対し、各地域で様々な取組みが行われてきた経緯がある。過密地域や過疎地域の学習を進める中で、農林水産業や工業、観光業の地域の広がりや近畿地方内や海外との結び付き、人々の対応に着目して、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事象と関連付けながら課題を追究する。この活動を通して、持続可能な地域づくりについて「産業」「生活」「文化」の視点や、「自治体」「企業」「地域に暮らす人」の立場から考え、地域的特色や地域の課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を高めていくものである。「新たな課題」の過程では、既習の単元や本単元での学びを基に、近畿地方の地域的特色や抱える課題を関連付けて考える活動を通して、</p>

身近な地域の過疎化に対応するための自然環境や産業を活かした取組や、南阿蘇村の持続可能な地域づくりについて多面的・多角的に構想する力を高めることが期待できる。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（単位：21人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
学習上の課題の解決につながる情報を読み取ることができる。	35%	45%	15%	5%
話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	42%	43%	10%	5%
課題解決に向けて、自分から取り組むことができる。	32%	43%	20%	5%

■本単元の学習に関する意識の状況（単位：21人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
社会の授業は楽しいですか。	28%	57%	10%	5%
社会の授業の内容はわかりますか。	14%	76%	5%	5%
資料を読み取ったことをもとに考えることができますか。	19%	71%	5%	5%
友達と協働学習をし、考えが深まることがありますか。	53%	42%	5%	0%
近畿地方について知っていること	○奈良や京都など観光名所が多い ○都会○大阪三大都市圏 ○人口が多い ○歴史的な建造物が多い ○修学旅行で行く			
南阿蘇村について知っていること（自由記述）	○水がおいしい ○自然豊か ○赤牛が有名 ○人がステキ ○景色がきれい ○農業が盛ん ●スーパーが一つもない ●過疎地域			

■考察

本学級は、意欲的に授業を受けることができる生徒が多く、ペアやグループでは自分の考えを述べたり、疑問に思ったことを素直に表現したりする場面がよく見られる。しかし、自分の考えを持つのに時間がかかってしまったり、考えるのをやめてしまったりする生徒も見られる。また、進んで発言をする生徒は偏っており、全体の場では発言しにくいという生徒も少なくない。アンケート結果から、8割以上の生徒が社会科の授業を楽しく、役に立つものだととらえている。一方で、内容の理解に関しては、2割程度の生徒に課題が見られる。定期テストでは「社会的な思考・判断・表現」の定着度が低く、授業でも資料の読み取りに力を入れていく必要がある。

3 指導に当たっての留意点

- 生徒の思考を深めるために、生徒同士の対話を促し、価値観の違う他者と協働して課題解決を図ることができるようにする。
- 単元を通した課題を設定し、それを解決するために必要な情報（知識及び技能）を収集し、それを基に考察・構想（思考・判断・表現）し、単元末には、それまでの知識及び技能を活用する単元の構成を図る。
- 意図的に構成したペアや班学習を取り入れ、他者の意見を参考にすることができるようにするとともに、学習の意欲を向上することができるようにする。

#### 4 本時の学習

(1) 目標 近畿地方の学習を振り返り、過疎に対する地域づくりの取組を考察し、持続可能な南阿蘇村にするための最適な事例を発信することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される子供の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
㊦ 導入	7分	<p>1 前時までの学習の振り返りと村長さんの言葉から課題を捉え、本時のめあてをつかむ。 ◇南阿蘇村の実態と似ている地域があるかもしれない。</p>	<p>○近畿地方で学習した内容を基に南阿蘇村が抱える問題と関連付け学習課題を設定する。 ○関心を引く資料を提示する。</p>
		<p><b>【学習課題】</b> 持続可能な南阿蘇村にするために、南阿蘇村に活かすことのできる近畿地方の地域はどこだろうか。</p>	
		<p><b>【めあて】</b> 近畿地方の学習を振り返り、持続可能な南阿蘇村にするための事例を発信しよう。</p>	
㊦ 展開	35分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。 ① 「持続可能な近畿地方」を基に発信しようと考えている候補地とその理由をロイロノートで確認する。(個人思考) ◇ 移住者を増やす。なぜなら、他地域からの人が増えることで人口も増加するから。 ◇ 観光客を増やす。なぜなら、南阿蘇のよさを知ってもらうため。 ② 異なる意見を交流し、候補地について考えを深める。(協働学習) ◇ ~町の~の取組も重要で南阿蘇村とつながりがある。 ◇ 農業をするために移住してくる人たちのためのサポートに力を入れていることがわかったから、合わせた取組も可能かもしれない。 ③ 村長の考え(願い)を聞いて、自分の考えを練り上げる。クラス全体に発信する。(全体) ◇ 私は、~地域の~の取組を発信します。理由は、~だから、南阿蘇村の実態とよく似ているからです。 ◇ 私は、~さんの〇〇の意見と自分の意見を合わせるとさらにいい取り組みにできるかもしれないと考えました。</p>	<p>○南阿蘇村について判断材料となる情報を基に考えをまとめるようにする。 ○タブレットを活用し、共有しやすくする。 ○教科書や資料集にある資料を中心にロイロノートの資料箱から自分に必要な資料を選択し活用できるようにしておく。 ○既習の学習を掲示しておき、活用しやすくする。南阿蘇村のパンフレットなどの資料を見ることができるブースを設ける。 ○話し合う際には資料を提示しながら根拠をもとに説明できるようにする。 ○行政機関の方の話を通して、過疎対策に対する関心を高める。 ○ペアでの教え合いを促し、考えを書けない生徒を支援する。 ○生徒の思考を揺さぶる発問として村長さんの考えに触れる。 ○他の意見の良さ(既存の知識を活用している、参加への積極性等)に気付くようにして、自分の考えを深める。</p>
		<p><b>【期待される学びの姿】</b> 持続可能な南阿蘇村にするために、これまでの近畿地方の学習や友達、村長の願いから具体的に考えている姿。</p>	
		<p><b>【具体的評価規準】 態</b> ○考察したことを踏まえ、候補地について理由を明確にして、発信しようとしている。</p>	
		<p><b>【到達していない生徒への手立て】</b> ○自分の考えを持つことができない生徒には、友達の考えを参考にするなどして、視点に絞って考えることができるように言葉掛けしていく。</p>	
㊦ 終末	8分	<p>3 本時の学習を振り返り、南阿蘇村をさらによりよくしていこうという展望を持つ。</p>	<p>○南阿蘇村を持続可能な地域にするために、自分たちにもできると思ったことが、今後の学習のどこで関連してくるのか、構想を立て次單元へとつなげる。</p>
		<p><b>【まとめ】</b> ~町、~村等の取組が南阿蘇村の参考になるといえる。</p>	
		<p><b>【振り返り】</b> 近畿地方の学習を振り返り、複数の資料や願い等を関連付けながら考え、根拠を持ち発信していくことが大切。</p>	

【板書計画】

〇/〇【近畿地方】

⑤

**【学習課題】** 持続可能な南阿蘇村するために、近畿地方の取組で南阿蘇に生かせる候補地はどこだろうか。

めあて：近畿地方の学習を振り返り、持続可能な南阿蘇村にするための事例を発信しよう。

近畿地方	農村の変化				
	地域の課題	課題や変化	具体的な事例	変化の様子	写真
奈良県川上村	過疎化 林業の衰退	若者が都市に移り住む	移動販売車による食品販売など高齢者に向けた取り組み	みんなが健康にくらせるようになった	
奈良県橿原市	過疎化 林業の衰退	外国産の安い木材と競争	森林を買い取って保全、田舎体験	森林や水、田畑を維持した	
京都府和束町	過疎化 高齢化	若者が都市に移り住む	地域ブランドの立ち上げ、景観の保全	観光客が増加	
京都府伊根町	過疎化 少子高齢化 空き家の増加	少子高齢化の進行	伝統的な瓦屋を改築して観光客を呼び込んだ	昔ながらの景観を守った	

⑥



⑦


**【まとめ】**  
～町、～村等の取組が南阿蘇村の参考になるといえる。

⑧

振り返り：近畿地方の学習を振り返り、複数の資料や願い等に関連付けながら考え、根拠を持ち発信していくことが大切。

【ICT 活用計画】

教師による教材提示の計画、ICT を活用した発表、まとめ等による考えの共有計画

- ・必要な資料など有効に活用できるよう ICT を活用し、生徒が見やすく、なぜ？どうして？が生まれるようにする。
- ・タブレット端末を使用し（ロイロノート）、思考ツール等を活用して、まとめ整理することで共有しやすくする。

【見方・考え方を働かせる学習活動（案）】

本単元の学びを生かして見方・考え方を働かせる学習活動計画

※日本の諸地域の学習終了後、身近な地域について地域的特色の広がりや結びつきをもとに、持続可能な地域づくりについて考えをまとめ、南阿蘇村役場の方に提案する。